



16. 975

軍務局



大正 九 年 五 月 日 午 時 分
 大正 九 年 五 月 九 日 午 前 五 時 四 十 三 分
 倫敦 局 發
 海 軍 局 着

發信者 英國帝國大使館附武官

受信者 次官

第廿番電電報譯(暗號)

フォルテンブルグハ「ポーセン」ヲ以テ五月八日「ウナル」ニ
 ハーフェンニ発約五節ニテ航行五月十三日「フォルス」
 ヲ「フォルス」ニ入リ、將校技術官ヲ派遣シ視
 察セシメタルニ砲頭、発射管等、主要ノ部、一切
 通信装置等ヲ初トシ、取外シ得ヘキ部分ハ悉ク
 取外シ船体部ヲ長時日ニ亘リ放置ノ結果腐
 蝕甚ダシク唯機関ノハ比較的、良好ナル状態ヲ
 保チアルモ是ニ現狀ノ儘ニテハ漸ク低速度力航海ニ

海 軍

0404

堪フルニ過キス

要スルニナワサウレト同様 同艦ノ現状唯艦船トシテ
ノ形骸ヲ止ムト云フニ過キス 同艦ハ豫定ノ如ク成ル
ヘク連ニ賣却處分ニ付スル也

五月十七日

海

軍

0405

309

大正九年五月

日 午前 午後 時 分 倫敦 局 發

二十三日 午前 六時二十分 海軍 局 著

發信者 在英大使館附武官

受信者 次官

第八十八番電 電報譯

宣傳用及配當用旧独逸艦船着英後賣却前之於ケ我將校技術官ヲ特派之実況ヲ視察セシムルコトハ賣却ノ際ニ價格協定上最必要ナル手段ト信之ヲ實施セルコト其都度報告セシ通ニシテ今後之於ケモ尚ニ之回例梯ノ場合起ルモノト思ハ本視察員ハ門ノ關係上駐在員及監督官ヲ併用旅費支出方特ニ御詮議シ乞フ

軍務局

移

海軍

0406.

軍務局

秘

401

大正 九年 九月 廿九日 午前八時 五十分 海軍省 局 發

受信者 次官、次長

電報譯

第九十二番電報中

ニ、S六十ヲ配當ノ件ハ、本會ニテ決
定、大使會議ノ決議ヲ待ツコトナ
レリ、ノ誤ニ付訂正アリタリ

海軍

0407

400

大正九年五月廿八日午後四時二〇分
巴里局發
海軍局著

發信者 在佛大使館附武官

受信者 次官、次長

第百六番電報 譯電報先、東京、倫敦、柏林

一、條約二百九末項軍用材料ニ関スル圖面等
提供方ニ就キ二月以來交渉中ナル處獨國
言明ヲ左右ニ托シ今尚未之ガ實行ヲ
ササル旨監督委員長ヨリ大使會議ニ
具報之來リ
二、右ニ関シ海軍會議決議ノ指令案ヲ要ス
獨國側ノ抗議ニ全然理由ナシ聯合國
政府ハ獨國ノ本問題ニ對スル態度ノ

海軍

0408

條約違反ナルコトヲ指摘シ且直ニ之が實
行ヲ要求スルモノナリ
三、五月二十六日大使會議ハ前項指令案ヲ
承認シタリ

(五月廿七日)

海

軍

0409

No. 407

大正九年五月二日午前十時十五分
倫敦局發
海軍局着

發信者 海軍大臣館附武官

受信者 次官

(略号) 電報譯

古近司大佐より電報轉電ス

第二十四番電報

一、引渡艦艇回航入負石炭供給難ヲ理由トシテ

進行極々遅々トシ四月上旬以來今日迄僅ニ英

國行五隻(船)佛國行十一隻ノ殘餘九隻アリ

吾軍港地ノ秩序ハ次第ニ回復シ目下國防大官ハ

各地ヲ巡回シ士官准士官間ノ輾轉調停ニ努メタリ

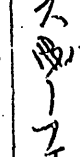
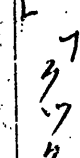
キール軍港ニ於テハ准士官ノ司令長官ハ既ニ

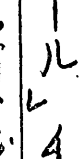
海軍

0410

海軍省令第十三行野統

其、職ヲ退キ從來当海軍委員ト折衝ノ任ニ当ル
代將  男爵其、職ニ就クニト云フ

三第百九十二系實施監督ハ人手不足ノ結果兼
佛ハ新ニ中佐同相当官以下十数名ノ委員ヲ擢
負シキル  ウキルハスルニ  フクニスハ  ノ三
軍港ニ固定的ニ配置スルコトセリ

杉山大尉ハ  委員トシテ不日内地ニ出張ノ
旨、概シテ当實施委員ノ業務ハ國別關係ヲ
廣外視シ各其專門ニ應ジテ分担ヲ定メ居リ
從テ山中、杉山ニ目下伯林附近ニ在ル工場檢
閱極メテ多忙ナリ

五月二十九日

海

軍

0411

大正九年六月

十日

午前七時五分

倫敦局發

發信者 在倫敦收入官吏

受信者 海軍大臣

電報譯

四月十日 經理局長電報宣傳用及分配艦船
賣却代第一回驅逐艦二隻英貨參千磅
第二回ナッソー英貨壹萬六千磅計壹萬九千
磅六月七日日本銀行代理店預ヶ入レ濟

水部部課課



終

海軍

0412

軍務局

秘

440

大正九年六月廿二日午前八時五三分 倫敦 局發

發信者 在英大使館附武官

欠官、次長

第一課 第二課 航空部 潜水部

電報譯

左近司大佐第二十八番電報

一軍港地方委員編成ニ付英佛間ニ確執

アリ即チ佛ハ先ツキール「不明」ウイルヘル

ムスハーフェン「自己ノ權力下ニ取込マント

シテ佛國委員中ヨリ President「ヲ撰マン

コトヲ主張シ英ハ之ヲ否ミテ佛ニ Curkallen

ヲ主宰セシメントス、議論ノ結果委員

長ハ事ヲ投票ニ決セントシタル所 日裏ニ

海軍

0413

Augshung 一件ニテ畧量ヲ下ゲタル佛ハ終ニ
其ノ主張ヲ撤回セズシテ其俟散會シタリ
二、ウイルヘルムスハーフェン軍港モ本月初頭司令
長官 *Meinhold* 少將以下各軍衙職員ノ任命
アリ漸次其ノ秩序恢復シツツアリト傳ヘ
ラルルモ最近同地出張中ノ英國委員ノ
報告ニ依ルバ士官ハ下士卒ヲ嫌フコト蛇蝎
ノ如ク又彼等ノ暴行ヲ怖レ為ニ軍紀
敗頹シ威權毫モ行ハレス前途暗愴タ
リト云フ
三、引渡艦艇ハ目下曳船故障トノ理由ニテ
六月中ニハ若干ノ驅逐艦ノ外ハ軍艦ハ回
航不可能ナリト通知越セリ此遅延ハ

海

軍

0414

関係職員が爾後ノ失職ヲ怖レ殊更ニ永引カ
シメントスル企圖ニ非スマトノ疑當委員長間ニ
起リ委員長ハ此旨大使會議ニ申報セリ
餘リニ穿チタル觀察ナルが如キモ然レバトテ
之ヲ否定スヘキ及證無し

四、杉山キール委員長ノコト既報通り待チツツアリ
担任ノ業務終リ次第出発ノ筈我増加委
員ハ支部Bニ配置シ各自ノ研究事項モ
考慮シ差當リ植村井上ヲ伯林ヲ中心トシ
地方委員ニ豊田シ、ウエルムスハーフェン委員
ニ配スヘキ豫定尚中島ハ支部A、山中ハ
機関関係ノ工場檢閲ニ参加シ伯林シ
本據トス、

(六月十八日)

海

軍

0415

軍務局

No. 441



第一課	航空部	燃料部
-----	-----	-----

大正九年

月

日

時

分

海軍局

發

六月二十三日午前七時三十五分



英領事館附設官

第百四番電



報譯 (暗号)



アルテナルク 賣却代金受領済、同艦、現状、
 累々第八番電報、告、通、上、が、請負業者、
 近時金屬類、下、落、劣、價、騰貴、之、解、体、
 意外、長、日、月、ヲ、要、ス、ル、ト、兵、器、鋼、鐵、等、比、較、
 的、不、用、品、ヲ、除、キ、テ、他、ニ、利、用、シ、得、ル、部、分、僅、少、ナ、
 等、理、由、ト、シ、テ、一、万、九、千、磅、以、上、提、供、ス、ル、ト、能、ハ、ス、
 カ、及、令、他、ニ、交、渉、ス、ル、モ、此、以、上、ノ、價、格、ニ、テ、受、入、
 ナ、カ、ル、目、下、状、況、已、ニ、ヲ、得、サ、ル、モ、ト、認、メ、之、ニ、同、意、ヲ、

送

六月廿三日

軍

軍務局受

0416

9. 6. 23



軍務局



16.446

大正九年六月

月二十三日午後一時四十五分 巴里局發
月二十四日午後十時三十分 海軍局着

發信者 佛國在勤帝國大使館附武官

受信者 次官、軍令部次長

第一番電 電報譯(暗號)

(電報先東京倫敦)

敵潛水艦破壞ノ期限ハ昨年十二月二日最高會議決議書第五項ニ依リ一箇年トアルヲニテ其始期ヲ規定スル所ナシ依テ六月二十一日海軍會議ハ之カ始期ヲ本年七月一日トシ之ヨリ起算シ十二箇月ノ終リニ於テ破壞作業完成スヘキヲ議決シ不日大使會議ノ承諾ヲ受クル等ナリ

六月二十三日

海

軍

(了)

0417

秘

軍務局

海軍部

16453

大正九年六月二十三日午後六時二十五分
大正九年六月二十六日午前九時
巴里海軍局着

發信者 佛國帝國大使館附武官

受信者 次官、軍令部次長

第一二二番電 電報譯(暗號)

電報先東京、倫敦、伯林、羅馬

敵艦分配ニ関シテ、累ニ隻數、ミ決定シ艦名ノ

選定未濟ノモノアル處 六月二十一日海軍會議ニ

於テ左ノ要旨、如ク決議セリ

佛伊ノ保有ヲ許サレタル輕巡洋艦及驅逐艦ハ

累ニ海軍監督委員長宛「前獨輕巡洋艦ハ

最良ノ狀態ニナル六隻ヲ佛港ニ回航スルコト仍

此外就役シウル見込アレハ夫ト同時ニ佛港ニ回

海軍

6.28

0418

航スルコト、前獨驅逐艦ハ最良ノ状態ニアルモノヨリ
 少クモ十五隻為シ得レハ更ニ五隻都合二十隻
 ヲ佛港ニ回航スルコトヲ指令セリ佛伊代表者ハ
 右獨國輕巡洋艦及驅逐艦並埃國輕巡洋艦、
 驅逐艦ヲ點檢シ其候補ノ順序ヲ定メ右順序
 ニ從ヒ佛伊兩海軍省協議、上獲得艦名ヲ決
 定シNACDEVヲ經テ大使會議ニ報告スル
 モノトス

三、用トシテ伊國ニ配當スヘキ埃國驅逐艦ハ
 對埃條約實施ニ入ラハ伊國ハ海軍會議ヲ經テ
 其希望艦名ヲ大使會議ニ申出ツルモノトス
 四、伯利西爾及波蘭用水雷艇ハ英港到着ヲ待チ
 兩國委員之ヲ選定スルモノトス其他ノ小國用埃

海

軍

0419

國水雷艇ハ對奧條約海軍監督委員ニ於テ成ル
 ヘク速ニ之ヲ決定シ大使會議ニ報告スルモノトス
 葡萄牙用土國砲艦ハ對土條約海軍監督委
 員之ヲ決定シ大使會議ニ報告スルモノトス
 五、分配ヲ受クヘキ各國ハ艦艇現狀、儘之ヲ受領
 スルモノトス艦艇機関其他ノ損害ニ関シ保管
 國ニ於テ其責ヲ負フコトナシ

六月二十三日

海

軍

0420



軍務局

16.465

大正九年六月二十六日午後二時三十分 巴里局發
大正九年六月二十八日午前十一時二十五分 海軍局着

發信者 在佛國 帝國大使館附武官

受信者 次官

第百四番電 電報譯(暗號)

電報先東京倫敦

六月二十五日大使會議ニ於テ左記事項ヲ承認セリ

一、日本ニ配當セラレシ宣傳用驅逐艦S五十一、代

艦トシテS六十(倫敦電九十二)

潛水艦破壞期日ニ關シテハ當方第百二十一番電

報(通承認)

六月二十六日

海軍

0421

9.6.29

軍務局

第...
...

10.469

大正九年六月三十日午前十一時三十五分
倫敦局發
海軍局着

受信者大臣

(普通文電報譯)

分配艦船賣却代第三回「オルデンスルク」英價
壹萬九千磅六月二十八日日本銀行代理
店預入済

○印

...

海軍

0422

四九二

大正 年 月 日 午 時 分 ロンドン 局 發

大正 九年 七月 十一 日 午 前六時 五十分 海軍省 局 着

受信者 海軍次官

電報譯

發信者 英國在勤帝國大使館附武官

第一百八番電報

飯田少將電報中継ス

ブラッセル海軍會議及スハニ於テ獨國海軍代表者

ト會見ノ結果四箇條ヨリ成ル 書ヲ首相會

議ニ報告シ七月八日ノ首相會議ニ於テ之ヲ獨首相ニ

交付シ七月九日迄ニ回答ヲ要求セリ條項要領左ノ

一、條約第百八十五條ニテ引渡スヘキ軍艦ハ實行停止

海軍

0423

艦乗員甚シク不良トナレリ聯合
國ハ少シモ三月一日ノ現状ニ於テ引渡ヲ受ル權利

ヲ有ス

二、條約第二十九條ニテ引渡スヘキ書類圖面ハ一モ入手
セズ本條ノ履行遲延ハ條約ニ反スルミナラス武備
制限ノ実行ヲ遲延セシム

三、條約第二十五條二十六條ノ監督委員ノ職務施行ニ
對シ独逸委員ノ妨害及支障ヲ受ケルコトアリ又
多數ノ兵器ヲ隠匿セル例アリ

四、條約第九十二條ニテ引渡スヘキ兵器ハ全部ニシテ
監督委員ニ通告スルコトナク破壊セシモノアリ

七月九日

海

軍

(月島大久保訪)

0424

軍務局



大正九年七月十二日午後九時五分 巴黎海軍局發

受信者 海軍次官 軍令部次長

發信者 佛國在勤帝國大使館附武官

第三六番電報

報譯

今因「スパー」會議中直接海軍に關する點、既ニ倫敦經由ニテ電報に置キテ通り極メテ簡單ニシテ重要ナル事項ハ陸軍條項ナルヲ以テ詳細參謀本部に通知アル様依頼に置ケリ、大体「スパー」會議ノ経過ヲ觀察スルニ白國首相、議長席ニ就キ居ルモ金ク英佛首相ノ協議間ニ介在シ兩者ノ意ヲ受ケテ議事ヲ進行セシムルニ過キス何事モ英佛首相ノ協議ニ成リ且英首相ノ發言ニ待チ佛首相ハ會議中竟ニ一語ヲモ發セズ

海軍

0425

5128
新報

獨國兵力兵資削減ニ就テ、佛國側ニ最モ強硬ナリシモ英
國側ニ比較的温和ナル意見ヲ有セルモノト觀察セラル、
獨國側代表者中外務大臣 *Simon* 之カ中堅トナリ
英國首相トノ應答、精細陳情等ハ何レモ同ノ口
ヲ出テ即座ニ應答ニ最モ巧ミタル人ト察セラル、
國防大臣ニ餘ニ多クヲ語ラス陸軍總長主トシテ陸軍事
情ノ説明減兵困難ノ理由ヲ指示セリ、

海軍代表者 *Jon Muller* (エムデン艦長ノ兄弟ナリトナト)
平服ニテ出席陸軍代表者、軍服ト鉄十字章ヲ佩シ
ルニ對シ對照面白ク英國海軍士官中ニ大イニ評判善
シ蓋シ海軍ニ関シテ困難ナル問題ナキモ依ル(中モ海軍
代表者、英佛語ニ巧ニシテ *John* 海軍中將トノ應答恰モ
友人間トノ談話如ク無造作ナル要件ニテ解決ヲ終リシニ依ルナラ

七月十日 飯田少將

No. 506

大正 九年 七月 十三日 午後六時十五分 巴里 局 發
大正 九年 七月 十五日 午後六時三十分 海軍 局 着

受信部 課長 官 軍 令 部 次 長
英國 帝國 大使 館 附 武 官

(勝 務 部) 電 譯

第百四十番電報

Military 問題ニ関スル陸海軍及空軍委員ノ
意見

「スパー」ニ於テ 聯合國 陸海軍及空軍代表者
最高會議ノ令ニ依リ 千九百二十年七月七日會
合 Military 島ヲ武備撤廢地帶ヲ除外
セントスルハ エニセロス 氏ノ提案ヲ審議セリ
各代表者一致ノ意見見古、如シ

海 軍

0427

希臘政府ニ對シテ道路及鐵道建設ニ関シ
McLaren 島ニ於ケル條約上ノ拘束ヲ解除シ
善支ナシ又守備軍トシテ同島ニ希臘軍
隊ヲ駐屯セシムルコトヲ許容シ得ヘシ但是條約
同島ニ要塞ヲ維持シ或ハ之ヲ築造スル權利ヲ
附与サルモノニアラス
海軍及空軍ハ其行動範圍大ニシテ其行動
ハ海峽ニ達シ得ヘキヲ以テ McLaren 島並ニ其ノ
他ノ諸島ハ聯合國中三國協同シテ行動スル
場合ノ外軍事上ニ之ヲ利用セシムルヲ肝要ナリ
(對土軍事條項第三ニ參考)

七月十三日

海

軍

0428

9.7.15



軍務局

No. 527

大正九年七月二十日午前十一時

倫敦

海軍

英帝國大使館附武官

受信者 次官、軍令部次長

(暗號) 電報譯

右近司大佐第三十二番電報

一、系約第百八十八條ニ依リ、聯合國政府ノ指定

スル工場製造所ニ関シテ、大體將來ノ船舶

補充、常備船隊ノ維持補給ニ必要ナル程

度ニ存置セシメ、過剩ノ施設ハ内容ニ

依リ、之ヲ閉鎖セシムルカ又ハ第百九十九條ノ規

定ニ依リ、破壊セシムルカニ決定スル方針ヲ以テ

目下聯合國海陸委員ニ於テ調査中

海軍

0429

二然ルニ佛國委員ハ前記ノ二箇条ヲ混淆シテ
極端ニ解釈シ且閉鎖ノ佛説ニ *Self-interest*
ハ廢棄ヲ意味ストテ海軍造船所ヲ初メ一切
建築物、機械、繫船埠頭、船台、繫船堀、
乾船渠、倉庫、其他海陸諸般施設ニ
シテ前述ノ程度ヲ超過スルト認ムルハ全部之
ヲ破壊セシムルヲ要スト主張ス

三七月十日日本側当海軍委員會議ニ上程
委員長ハ是等海軍関係ノ重要物件ヲ
陸軍系項ニ優先シテ処理スルコトハ合理ナラズ
畢竟系約ハ是等ニ手ヲ附ケサル積ナリト
解スルヲ要当ナリトスヘシト述ベ日伊ハ大体之
ニ同意シ佛ノ主張ヲ否決セントシタルハ佛ノ要

望ヲ容レ不日一鷹大使會議ニ東京宿スルフクト
ナキ

七月十七日

(明正印圖)

海

軍

0431

大正十年三月

十五日午前五時三十分 伯林方來
十七日午前五時十五分 海軍方着

在神 植村海軍中佐

海軍次官

第五十一番電

第一期造船材料輸送ハ三月二日經理局長

ノ返電ニ基キ船舶会社ヲシテ年度契約ニ依リ之ニ

當ラレル事ニ決シ四月五日及五月五日ノ二回各々

四千噸宛「エムデン」ニ於テ船積ミノ事ニ手配セリ

造船材料ハ目下「ヂュッセルドルフ」ニ於テ製造中

材料試験ニ立会、為派遣セシ櫻井機師大尉

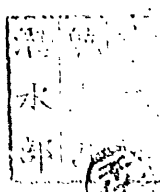
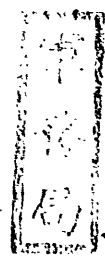
ノ報告ニ依ルニ製造無事進捗豫定期日迄

引渡ヲ受ク事見込又試験ノ結果ハ極メテ良

好ナリ

10.3.17

0432



大正十年四月

七日 午後十時 東京

在獨植村海軍中佐

伯林参

海軍次官

第五十二番電

第一期洗材造船材料内千九百二十四噸本月五日

於テ引渡、受テ郵船敦賀丸ニテ發送セリ

同船ハ六月中旬横須賀着、豫定

材料内譯 Mark. Weight in round per square foot

巾長サ枚数重量、順序

P1 七半 五 二〇 四七〇 一八一

P2 二〇 六半 三〇 三九〇 七三一

P3 二五 六 三〇 四九二 一〇五二

残部、引渡無事進捗シツツアリ

10.4



0433

保険ハ年度契約ニ依リ一頓十二回見續價格ニテ
帝國海上ニ附シタリ

0434

軍務局

秘

海軍次官

大正十年二月

八月廿五時

在伯林

植村海軍監督委員

植村少校
海軍省第

0435

キールニ於テ他國ヲ我國引渡スル定メ或船二隻ハ各排他噸數百二十噸ハ未ル二月十日頃キールニ於テ正式ニ之ヲ受領シ即日漢堡杜任亮川我信ニ轉贊十五萬馬克ニ賣却スルコトニ四里及倫敦協議上決定セリ

右報告ス

右金額ハ何ニ送入金スヘシヤ

二月七日

軍務局

海軍次官

大正十年二月

十四日午後十時

十七日午後七時

三十分

伯林發
海軍省着

在独
植村海軍中佐

0436

第四十九番電

第一期引渡港材中日本、不足額概不昨年官房機

第三百八十五番電指示、造船材料八千噸受領、

コトニ決其、引渡條件左、通

一、引渡、約半額四千噸宛二回ニ區分シ其、期日ハ概不

第一回三月中旬、第二回四月中旬ト豫定ス

二、右材料、輸送ハ獨港、エムデン、日本船舷側迄ハ

獨國側之ヲ行ヒ其、船積、荷役ハ日本側ノ負担

トス就テ此際貴方ニ於テ適當ト認ムル商社ト右

材料、本邦輸送ニ関シ契約締結ノ上所要事項、
指示ヲ得度因ニ倫敦小林委員ハ三井ヲシテ之カ輸
送ニ當ラシムルヲ可トスル意見ナリ
右ニ対シ至急御指令ヲ仰ク

二月十四日

0437

大正十三年二月

二月十四日午後三時三十分

伯村家
海軍省第

在獨植村海軍中佐

海軍次官

第五十番電

軍務局

二月十四日第四十九番電ニ、要由ノ造船材料輸送

契約締結ニ関シ其引渡期日ニ切迫シ船積

等國ニ和國側ト交渉都令アリ大至急何處ノ御

指令ヲ仰ス

海軍省副官ハ



二月二十五日

今後当方アドレス

Naval Inter Allied Commission at Control

Wilhelmstrasse 67 a Berlin.

電報宛名附記

Japanese Section Control Naval Berlin

0438

大正十三年二月

二十一日午五時

倫敦
海軍大臣
在美造船造兵監督會計官

海軍大臣

分配中船二隻賣却代種貸十五万馬克比其債
六百十八磅十一志一片本月二十五日日本銀行代理
店預入済

0439

軍務局

海軍

第一課
第二課
航空部
潜水部

大正十年四月二十三日午後一時。分伯林奈
二十四日午後十時四十分海軍省着

海軍次官

第五十三番電

第一期港材造船材料八千噸ノ内第二回分三千四百四十
噸本月二十一日「エムテ」ニ於テ引渡ヲ受ケ郵船「リスボン
丸」ニテ發送セリ同船八月上旬横須賀着ノ予定

材料内譯 *make. weight in pound per square foot.*
巾、長さ、枚数、重量、順序ニテ

P4	一〇	五	二五	一六七	一〇四
P3	二五	六	三〇	三九一	八三八
P2	二〇	六半	三〇	五九六	一二二四
P1	七半	五	二〇	三四四	一三三

10. 27
+ 10

外 =	P7	P6	P5
Test pieces	一七	一四	二
	六半	五半	五
二五〇キ、入箱一個アリ保険前通	三〇	二五	二五
	二七一	四四六	一〇〇枚
	四四九	四二三	七五セ

0441

大正十年五月

十二日午後一時五十分
伯林森
十四日午前六時三十分
海軍省着

在独植村海軍中佐

海軍次官

第五十四番電

第一期港材造船材料八千噸、内第三回分千八百

七十三噸本月十日、エムデンニ於テ引渡ヲ受ケ郵船

三島丸ニテ發送セリ七月下旬同船横濱着、上横

須賀ニ回送、豫定

材料内譯

Make, weight in pound per square foot

巾長サ、枚数、重量、順序ニテ

P3 二五

六

三〇

一七枚

三七

P4 一〇

五

二五

一一〇

六八

P5 一二

五

二五

二五九

一九三

0442

P6	一四	五半	二五	五八九 _枚	五五二 _枚
P7	一七	六半	三〇	六三〇	一〇二三

保陰ハ噸十二磅ニテ東京海上ニ附シタリ
 本月下旬佐渡丸ニテ發送豫定ノ一千噸ヲ以テ第一
 期港材ノ受領ヲ終ル同船積ノ分ハ御申越通り
 呉工廠揚トスヘシ

五月十二日

0443

大正十年五月

二十四日午後六時
三十一日午後四時三十分
海軍省
倫敦

在英收入官吏

海軍大臣

神逸分配艦材賣却代村債百一萬九千三百二十七
馬克六十八布 此英貨三千九百三十八磅十三先五
片 本日本銀行代理店預入済



0444

軍務局

大正十年五月二十八日午前十一時三十分伯林奈
在独植村海軍中佐

海軍次官

第五十六番電

造船材料第四回分千七百七十九噸本月二十六日エム

テンニ於テ引渡ヲ受ケ郵船佐渡丸ニテ發送セリ

七月末同船神戸着、上呉ニ廻送ノ予定

材料内譯 *Made Weight in pound per square foot*

幅、長さ、枚数、重量、順序ニテ

P7	一七	六半	三〇	一一七	一八九
P6	一四	五半	二五	二四	二三
P5	一二	五	二五	六七九	五〇〇
P4	一〇	五	二五	七五〇	四六七
				枚	屯

塚原

10. 31 田利

0445

外 = Just pieces 一七〇キロ入ノ木箱一個アリ
第一回ヨリ、合計八千六百六十一噸トナリ之ニテ第一期
港材造船材料八千噸ノ引渡ヲ終リ尚百六十一噸又
超過ス此超過額ハ第二期港材ニ繰越スコトセリ
第二期港材ハ略、造船材料ニテ受領ノコトナル見込
本件決定ノ上ハ第一期同様郵船會社ヲシテ輸
送ニ當ラシメントス御含ミ置キヲ乞フ

五月二十八日

0446

No. 398

正
↓

大正 九 年 五 月 二十 七 日 午 五 時 一 分 海 軍 局 發
大 正 九 年 五 月 二十 七 日 午 五 時 一 分 海 軍 局 著

受信者 次官、次長

發信者 帝國大使館附武官

(附号) 電報譯

五月十四日老ノ通飯田少將三電報云、爲
第九十二番電

五月十一日海軍會議ニ於テ佛伊側ヲ其保有
ヲ許セラル旧神艦艇ノ佛港到着後、選定ハ何
人カ之ヲ爲スキヤノ質問出テ結局 N A C D E V
於テ處分レ尚問題起ラハ大役會議ノ指令ヲ待ツ
コトニ申合セタリ

第五十四番電報統々其面最末項ヲ左記決議

海 軍

9. 5. 20

0447

海

軍

ヲ船會ニ提出スヘシハ「左記決議ヲ理事會ニ提
出スヘシ」ノ誤ニ付訂正アリ

五月二十日

薄美波半紙十三行野紙

0448

大正十年六月九日午後三時

倫敦海軍省
在英收入官吏

海軍大臣

独逸分配軍材賣却代第ニ回、分独貨五十万
四千六百八十二馬克七十布此英貨二千六十二磅
八片本日日本銀行代理店へ預入済

前電ノ艦材ノ軍材ニ訂正ス

0449

軍務局

大正十年六月

十八日午前十時

伯林基
海軍省

海軍次官

在社 植村海軍中佐

第五十七番電

第二期造材ハ未ク細目確定セザルニ因官房様

迄第五十三番電指示ノニ準フル造船材料ニ及

領ノ上ニ内命セリ就テ之カ後領検査等ノ考考

ノ被度ニ付第一回ノ敦賀丸積銅板着ノ上ハ御都合

付カハ試験ノ上其成績其他心博要キコト成ル

連ニ御回示ヲ乞フ

六月十八日

10. 22
9. 13

0450

軍務局

獨逸分配軍材賣却代第三回、分独貨三十三万
六百九十八馬克八布此英貨千百八十一磅十八志
二片本日日本銀行代理店、預入済

10. 11
7. 11
田利

大正十年七月

七日午前一時

五分海軍省着

倫敦發

在英收入官吏

海軍大臣

0451

○訂正

七月二十八日發植村海軍中佐第六十番電報中
左ノ通訂正シ來レリ

本文六行目「五千三百」次ニ

三十九屯 *Article 51* 五百本

七行目「少許」次ニ

差異アルモ大体ニ於テ希望ノモノニ近シ

ヲ追加ス

大正十年八月二日

大臣小倉

0452

大正十年七月

二十八日午後五時三十分
二十九日午前十一時三十分
植村海軍中佐

海軍次官

第六十番電報 (語数不足問合中)

独國ヨリ帝國政府ニ引渡スヘキ第二期港材ハ豫定ノ

如ク造船材料ニテ七千五百三十九屯來ル入月下旬

十月初旬ニ亘リ約三四十分独港、エムデンニ受領

又少トニ決定材料内譯官房機密第五十三番電依リ

鐵板 P1 九百五十枚 P2 P3 P4 P5 P6 各五百五十枚計

五千三百五十八百本 S3 四千本 S4 一萬本合計二千二百屯

尤モ Angle Iron 寸法重量ハ細目ニ於テ少許ノ

Channel bar 独國標準寸法著シク希望ノモノト

相違スルニ付取除キナリ

0453

右材料、年度契約ニ基キ郵船會社ヲレテ内地ニ
輸送セシム、至急荷揚港ノ指定ヲ乞フ

二十七日

0454